
リハビリテーション天草病院だより

2024年1月

No.109



発行 埼玉県越谷市平方343-1 / (医) 敬愛会広報委員会

父からのバトンタッチ、そして未来に向けて

医療法人敬愛会理事長 天草 弥生



明けましておめでとうございます。

新年早々能登半島地震や羽田空港での航空機事故など、痛ましい自然災害や事故が起きております。

犠牲者の方、ご遺族の方に心からのお悔やみを申し上げます。

私事ですがこの度2023年11月1日付けで父である前理事長天草大陸の後を継ぎ、理事長に就任いたしました。重責を担い身が引き締まる思いですが、当法人のさらなる成長と発展を実現していく所存です。今後とも患者さん、ご家族、そして当院を紹介して下さる先生方のご期待に沿えるよう全力を尽くしてまいりますので、変わらぬご指導ご高配の程お願い申し上げます。

尚、引き続き院長も兼務してまいりますので、今まで同様リハビリ4本柱「ボバース概念を中心とした・高次脳機能障害に対する・摂食嚥下障害に対する・医科歯科連携によるリハビリテーション」を中心に職員一同一丸となり努力を重ねてまいりたいと思います。

さて、当法人が設置運営する委員会の1つに未来プロジェクト委員会がございます。本委員会は当法人の創りたい未来のための活動や事業、臨床面を含む企画を考案し実行する委員会です。病院や老健、その他の事業所が勝ち抜いていくため、広い視野を持った展開が必要で、法人としては次の3つが重要と考

えます。①技術力②簡便性③人間力。①は医師や療法士、看護師等スタッフが個々の力量をあげ、チーム全体のレベルアップを図る。②はIT化、医療相談室の連携体制のスピード化・効率化を図り、患者さんやご家族の負担を減らす。③は知力、創造力、協調性や他者を思いやる心を持つ。シンプルですが、結局はこの3つを底上げすることが法人をより高みに導き、持続可能な模倣困難性の獲得に繋がると考えます。

リハビリ医療で多職種連携のチームアプローチは必須です。当院併設の老人保健施設シルバーケア敬愛では病院と同質のリハビリを受けることができます。「老健から在宅へ」を信念としており、在宅復帰率は61%（2023年7月～12月平均）と非常に高いです。

当法人スタッフは日々の雑談の中でも小まめに情報共有を行っております。このコミュニケーションこそチームの要です。長いことチームアプローチに関わっておりますが、結局はスタッフ同士仲が良いこと、そこに尽きるのではないのでしょうか。職場は明るく開放的で、患者さんとスタッフの距離は近く笑顔に満ち溢れております。この環境は一朝一夕でできるものではなく、父と先代スタッフが築き上げた長い歴史と文化に培われたものです。新リーダーとして夢とぶれない心、そして強い意志を持ち続け、これからも患者さんに寄り添ったリハビリを続けてまいりたいと思います。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

回復期リハ病棟の「在宅復帰率」ってな～に

リハビリテーション部 副部長 塚田 和也

回復期リハビリテーション病棟（以下、回復期リハ病棟）には、職員の充実度やリハビリの実績等に応じて5段階のランクがあります。

当院は、全病棟が最上位ランクを取得しており、最も厳しい条件を達成しています。

回復期リハ病棟の大きな役割は、自宅や社会に戻り、少しでも元に近い生活を送れるよう専門的なりハビリを行うことです。このため、在宅に戻る割合を示す「在宅復帰率」は、回復期リハ病棟の重要な要素となります。

“在宅”というのは、少し聞きなれない言葉ではありますが、これは自宅と、それに準じる施設として、特別養護老人ホーム、介護付き有料老人ホーム、ケアハウスなどが含まれています。

当院の在宅復帰率は、図1に示すように、過去7年をさかのぼっても、平均8割を超えています。前述の最上位ランク取得条件にある在宅復帰率は7割以上で、これを優に超えており、全国の回復期リハ病棟と比較しても高い値となっています。

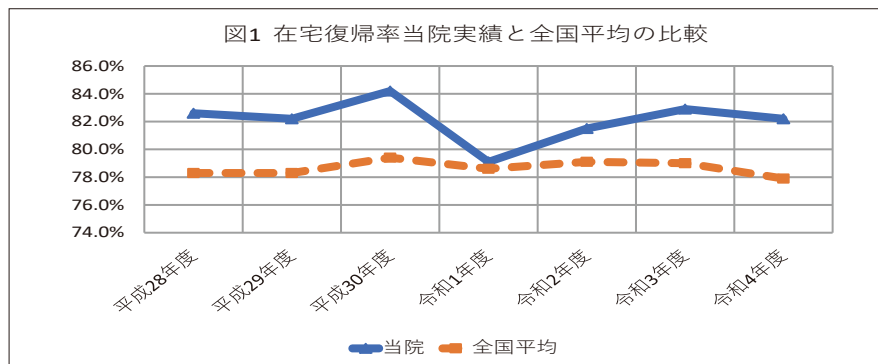
これは当院では、入院当初から在宅復帰に

向け、自宅の間取り図や、玄関など段差のある場所の写真などを、ご家族から提供していただき、退院後に快適な生活を送ることができるよう、早期から課題を検討している成果と考えています。

挙げられた課題は、医師、薬剤師、看護師、介護福祉士、理学療法士（PT）、作業療法士（OT）、言語聴覚士（ST）、管理栄養士、ソーシャルワーカーといった各職種が複数回のカンファレンスを行い、解決案を検討し、それぞれの職種が必要な支援を行います。

退院前には、リハビリ職員や担当のケアマネジャーがご自宅に伺い、トイレに手すりが必要なか、お風呂には椅子（シャワーチェア）が必要かなど、実際の動作を確認しながら、必要な福祉用具や、介護保険サービスの検討なども行っています。

コロナ禍も明けつつあり、ご家族の面会機会も徐々に再開できています。ご面会の際、不明な点、不安な点などがありましたら、リハビリ職員や看護師などにお気軽にお話しください。



「UP TO YOU」

春日部市 伊藤 佳之

今、リハビリをしながらもこうして手書きで原稿を書いていることが、私にとってはなかなか奇跡的なことだとしみじみ感じています。3年程前から両足の痺れに悩まされ、その原因がよく分からずに整形外科や内科等、いくつかの病院に赴いたものでした。そして、今年の4月半ばに春日部中央総合病院でMRI検査をして脊髄まわりに腫瘍が見つかり即入院し、4日後には腫瘍を取り除く手術をしました。春日部中央総合病院には手術後1ヶ月と少しお世話になり、車椅子から歩行器で歩く位の病状にはなっていました。まだまだ「両足の痺れが取れて、都内に出掛けて散歩する」という具体的な目標は、夢のまた夢という所でした。

5月末になり本格的なリハビリをするために天草病院に転院となりました。こんなに大きくて、リハビリに携わる先生や看護師、理学療法士、作業療法士、介護士が多数いるとは思っても、只々私はここでしっかりリハビリをしよう、都内に出掛けて歩きたい、自転車にもまた乗りたい、治るも治らないも自分次第だと腹を括ったのでした。

リハビリ実施計画書では約3ヶ月で退院、自宅での療養へということで、この3ヶ月のリハビリの頑張り次第で自分の足や今後の人生の多くが変わるんだと気持ちを奮い立たせました。入院したての私はかなりの不安も抱えていました。周りの患者さんの中にも、私より症状が重くて身体の自由がきかずに生活している方もいましたし、病院内の環境に慣

れるのもかなり大変だろうと予想しました。そして、約3ヶ月間天草病院の皆様迷惑をかけながらもお世話になることとなります。少し足の痺れが取れたり、少し歩行する時の姿勢が良くなったり、その逆に昨日より痺れていたり歩き方がおかしくなったりして、正に三歩進んで二歩下がるという日々が続きました。そのような中でも、天草病院の皆さんは励まし続けてくださいました。余り「頑張れ」という言葉は流行らない時代なのかも知れませんが、スタッフの皆さんが無言で、時には言葉で頑張りましょう、一緒に治していきましょうと励ましてくれて頑張れた気がします。周りの方々が退院したり、症状がどんどん良くなっていくと焦るものです。但し、それはそれ、自分を治すのはほぼ自分自身にかかっています。これだけ恵まれた環境にいるわけですから、真面目にリハビリに取り組まない訳にはいきません。

リハビリスタッフは私の話をよく聞いてくださいました。愚痴も多く話しましたが誰もが優しく耳を傾けてくださいました。また、毎日のように今日の調子はいかがですか？と細かく気を配ってくれました。看護師も明るく、大変な仕事をこなしながらも笑顔で接していましたし、部屋などを掃除してくれるスタッフも明るく挨拶をしてくれて気持ち良かったです。そして忘れてはならないのが、一日三食のバランスの取れた食事です。一人暮らしの私にはとても作ることはできない品々ばかりで、大変美味しく頂きました。

私が天草病院にお世話になるのもわずかなりました。この場を借りてこの病院に携わる皆さんに感謝の意を申し上げたいと思います。リハビリを通じてとても大きなこと、大切なことを学んだ気がします。天草病院と一緒に頑張った患者とそれを支えるスタッフの皆様、平和でありますように、そして健康で

ありますように。

※患者様は歩行可能な状態に回復し、令和5年8月、ご自宅に退院をされています。

(投稿日 令和5年8月15日)

「天草病院への感謝」

越谷市 佐々木 貴子

令和5年8月、私はリハビリテーション天草病院の4階に入院しています。脳梗塞からの左手足の麻痺でリハビリのために転院してきました。もう3ヶ月経ちました。

転院した頃比べると手足共にかなり動かせようになりました。初めは車椅子でしか移動できなかったのが、杖と装具があれば外を歩けるようにまで回復しました。手も出来なかったことが色々出来るようになりました。ペットボトルを開ける、髪を結ぶ、茶碗を持つ、ピアノを弾く、ここまで回復出来ました。まあ、ピアノはまだまだですが、退院するまでにはもっと上達していると信じています。

全てリハビリスタッフや主治医の先生、看護師、介護士の方々のお陰です。感謝なんて言葉では足りないほどに感謝しています。身体面だけではなく精神面でもとてもお世話になりました。私が早く退院したいと駄々をこねた時も親身になって話を聞いていただき、私にとっての最良の道を考えていただきました。正直、大変な時もありましたがリハビリスタッフは明るくて楽しいばかりだったので乗り越えることが出来ました。とてもフレンドリーなスタッフが多いので趣味のアニメや映画の話をするがらのリハビリはとても楽しく、退院を意識する今は寂しくもあります。きっと退院する時は泣いてしまうと思います。

あと嬉しかったこともありました。ご近所の方が「リハビリ頑張ってるね」と、声をかけ

てくれたことがありとても励みになりました。きっと病院とご近所さんも良好な関係なんだろうと思います。

おそらく私の入院期間はあと数週間だと思いますが、家に帰ったあとに後悔のないように、最後まで気を抜かず頑張ろうと思います。最後にお世話になった皆様方、本当にありがとうございました。

※患者様は杖歩行可能な状態に回復し、令和5年11月、ご自宅に退院されています。

(投稿日 令和5年8月31日)

感謝の声 (投書箱より)

病院職員の方が皆さん優しく親切に対応して下さったので快適な入院生活を送れました。リハビリ中、お話ばかりで終わってしまうことも多かったのですが「話すこともリハビリです」とおっしゃって頂き救われました。同じ病気をした患者同士でお話できたのも心強かったし、貴重な体験です。食事もお一人お一人にきちんと栄養管理がされていて、その人に合った食事を出して下さっていたのでありがたいし、感心しました。大変お世話になりました。

(B病棟 入院患者様より)

3Fの皆様はとても明るく毎日笑っています。一人笑うと皆で笑って、とても和やかです。とても素敵な響きで一日中幸福な気持ちでいられます。自分はここに居られて、人としての器もすごいなあと思いつていきたいとつくづく思います。ずっといつまでも居たい気持ちで一杯です。ここに入院出来て本当に良かったです。ありがとうございました。

(B病棟 入院患者様より)

医師、放射線技師、言語聴覚士の連携

放射線技師 新谷 紀幸

天草病院では、月に約20～40件くらいの嚥下造影検査（VF）を行っております。

今回はVF検査と放射線被爆線量についてお話ししたいと思います。

VFは、X線TV検査室で医師、言語聴覚士が数名検査室内に入って検査を行い、VF1件の検査時間は、約5分から10分くらいです。検査中は、安全を確保し被爆防護のために、全身鉛プロテクター、甲状腺プロテクター、水晶体防護メガネを装着して検査を行います。放射線管理区域に立ち入る方は、電離放射線障害防止規則により一時的に立ち入る場合も含めて全ての方が胸または腹部に放射線測定器を装着しなければなりません。

そのため医師には放射線測定ガラス線量計、言語聴覚士には個人電子ポケット線量計を装着してもらい放射線被爆管理に努めています。検査後は、その日の被爆線量を個人ごとに記入し、個人それぞれの被爆線量分かるように管理しています。

VFによる医師、言語聴覚士の1日の被爆線

量は約0～2マイクロシーベルトになります。

参考までに、胸のレントゲン1枚の被爆線量は、約10マイクロシーベルト、胃のバリウム検査の被爆線量は、約1000マイクロシーベルト、頭部のCT1回の被爆線量は、約90000マイクロシーベルトです。

VFによる被爆線量が微量である事が分かってもらえると思います。

今後もチーム医療の一員として、安全に検査が行えるよう医師、言語聴覚士と連携して放射線被爆管理に努めて行きたいと思っております。



《用語の説明》

- ・VF（嚥下造影検査）：バリウムなどの造影剤を含んだ食事をX線透視下で食べてもらい、透視像をビデオやDVDに記録し、嚥下運動が適切な食形態を評価・診断する検査のことです。ちなみに、類似した検査でVE（嚥下内視鏡検査）という検査がありますが、これは、鼻腔ファイバースコープという内視鏡をのどに挿入し、食物の飲み込みを観察する検査で、唾液や喀痰の貯留の有無、食物を飲み込んだ後の咽頭内への食物の残渣の有無や気管への流入（誤嚥）などを評価することができます。また、嚥下に影響を与えることのある声帯の動きも評価することができます。

地域包括支援センターの役割と介護者サロンの紹介

越谷市地域包括支援センター桜井 保健師 千葉 薫美

当施設は、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるように、必要な援助・支援を行う当法人運営の「高齢者のための相談窓口」です。桜井地区は下間久里にある桜井地区センター「あすばる」内にあります。

具体的な業務は、①介護保険制度に関わること ②家庭内の虐待、オレオレ詐欺など権利に関わること ③地域とのネットワークづくり ④生活全般に関わること、の相談を受けています。

ここでは③地域とのネットワークづくりに関連して、地域包括支援センター桜井が立ち上げに関わった「※介護者サロンあすなる越谷」についてご紹介します。

※介護者サロンとは、介護している方が集まり、話をしたり相談する場所の事を指します。

「介護者サロンあすなる越谷」は令和4年7月10日に始まりました。地域包括支援センター桜井へ相談する方の大多数は介護者の方で、その介護者の方々から「こんなこと話しても実際にやった人にしかわからない」「誰にも話せない」といった声を多く頂いていました。そこで、普段から包括と連携を取り地域活動へ理解があった、あすなる越谷施設長・横田様へ介護者サロンの話をしたところ、快く開催のご了解を頂き、場所の提供とスタッフの協力を頂けることとなりました。

現在、介護者サロンあすなる越谷は毎月1回、10:00～11:30まで開催しています(今年度は1月14日、2月18日、3月10日に開催されます。会費は100円です。詳しくは当セ

ンターまでご連絡ください)。

介護者サロンは日々の疑問、悩み等を話す場所ですが答えが出る場所ではございません。参加者はご自身の事を話されますが、そこに正しいも悪いもありません。ただ、自分の思い、不安や怒り、喜びや楽しさを話すだけです。具体的な対策が出たり出なかったりします。そもそも、そんな話が出ないこともあります。

それでも「心が軽くなる」と、参加者の方が話されます。自分一人で抱えて押しつぶされそうだった不安を、参加の後に「なんだ、こんなものだったか」と話し、晴れ晴れとした表情で帰られる方もいます。

状況は何も変わらず、答えも出ません。それでも「明日また頑張ろう」「介護は苦しいだけじゃない」という気にさせる、そういう場所になっています。

もし介護に対し不安を感じている方、「自分がやるしかない」と思っている方、「介護なんかするもんじゃない」と思っている方、おられましたら当センターへご連絡ください。ご利用できる介護保険制度の紹介、申請のお手伝い、そして社会資源として介護者サロン等をご紹介します。



お問い合わせ先：TEL048-970-2015

編 集 手 帳

＊元旦、新年の挨拶をする間もなく病院の所在地である越谷が大きく揺れました。石川県で震度7を観測した能登半島地震。発生後11日目現在、行方不明者の捜索や救助活動が続きますが、今回の地震で摩訶不思議に思ったことがあります。

＊一つは、従前から能登半島圏域は地震が多くなり強い揺れを何度も経験しています。

これだけ地震研究が進み科学が超高度に深化したにもかかわらず、何故、予知できないのかであります。

＊二つ目は、死者の数や安否不明者の数が今現在もつかめていないことです。情報化が高度に進んだにもかかわらず、何故、把握できないのかであります。現代社会の最大欠点であると思料します人と人とのコミュニケーション欠如が根底にあるのでしょうか。

(相談役 天草大陸)

当法人の公式ソーシャルメディア

患者さんへの情報発信として、当院の公式 YouTube チャンネルを開設しています。右のQRコードからアクセスできますので、是非ご視聴ください。

【紹介動画】

- ～回復期～ リハビリ治療の達人たち
- 入院当日の流れ ー回復期リハビリテーションー
- 口から食べるリハビリ最前線 摂食嚥下リハビリーVE/VF検査ー
- 脳卒中から仕事に戻るまで ー高次脳機能障害からの復活ー 他



当法人施設が取得する第三者評価認証

患者さんが病院を評価するには、その病院自身の「自己紹介」も参考になりますが、第三者の評価も重要です。当院では「病院機能評価機構（主たる機能と高度・専門機能）」と「ISO」の認証を取得しています。なお、併設の老人保健施設でも「ISO」の認定を受けています。



表紙のことば

突然の病気で当時の私は、理解もできないまま天草病院に来ました。リハビリを始めた頃、利き手の右手が思うように動かず以前のようにもう戻らないと諦めかけていました。そんな中、看護師さんの方から一緒に鶴を作りましょうと提案され鶴作りを行いました。最初は上手く行かず大変でしたが、看護師さんが寄り添って協力してくれたので無事に鶴を完成させることが出来ました。作品を完成することができ、身体的にも精神的にも自分に自信を取り戻す最初の一步となりました。とても楽しい時間でした。

(C病棟 M.Y様より)